12. 新生児先天性心疾患術後 follow-up

国立小児病院における新生児期(生後28日末満) 先天性心疾患(CHD)の手術施行第1例は、昭和 46年12月3日である。以後、昭和60年12月末まで 14年間の新生児心疾患手術症例は96例、手術死亡 例(術後30日以内)58例、術後30日以上の手術生 存例は38例である。その疾患の内訳を表1に示し た。手術死亡例中プローベとあるのは、麻酔導入 中、開胸中あるいは心大血管手術操作中、心停止 を来たし、目的の手術を達し得なかった症例であ る。消化器系奇形の手術もあわせ施行した症例は 8例(半数はTEF)、うち手術生存例は4例であ った。

手術生存38例のうち,非開心例の Coarctation 9 例中1 例を敗血症で、VSD 3 例中1 例を肝障害で、また、開心例の TAPVC 5 例中1 例を敗血症、空脹穿孔で、計3 例を術後30日以上の入院中に失った。残り35例中、術後1年未満例は7 例、1 年以上経過症例は28例、最長 follow-up 期間は14年間である。

術後、1年未満症例7例は、すべて非開心例であり、二期的手術待機中の ECD (PAB) の1例が8カ月後、TA (1B-Tシャント) の1例が7カ月後ともに自宅で突然死している。なお、未熟児、Down、PDA (Ligation) の1例は多発奇形を有し、声帯麻痺のため気管切開が行われ、術後11カ月引続き入院中である。

術後1年以上経過症例28の内訳は、非開心例として Coarctation 5例(うち1例は VSD を伴わない simple 例),Interruption 3例,PDA 7例,VSD 2例,ECD 1例,その他(Taussig-Bing)1例,PPA 3例,TA 2例であり,開心例としてTAPVC 4例である。開心例 4例,PDA 7例および simple coarctation 1例の,根治手術であ

常本 実*, 島田宗洋*

る計12例を除いた非開心姑息手術後1年以上生存 16例の経過を表2に示した。なお、関心例の TA PVC 1例は術後3年9月、自宅で突然死したが、 剖検(監察医務院)では、死因となる重大な変化 は認めなかった。

術後体重、身長の推移をみると、未熟児 PDA 2 例を除いてすべて正常の発育を示した。その 2 例の未熟児 PDA 中 1 例は、前述した気管切開施行の Down 例である。 1 年以上経過した他の 3 例の未熟児 PDA の術後体重、身長発育は正常であったが、1 例は未熟児網膜症(光凝固)のため弱視(眼鏡矯正)を呈し、1 例が難聴のため補聴器使用中である。

脳神経学的異常が4例に認められた。すなわち、 TAPVC 4例中1例が術後 CP を呈し、1 例が

表 1 新生児 CHD 手術96例 (1971~1985, 国立小児病院)

疾患名	症例数	手術死亡例(プローベ)	手術生存例	
非開心例〕				
肺血流量増加群				
Coarctation	18	9 (2)	9	
Interruption	9	6 (4)	3	
PDA	16	7	3 9 3 2	
VSD	4	1	3	
- ECD	2	0	2	
Truncus	2 2	2 (2)	0	
その他	2	1	1	
B†	53	26 (8)	27	
	手術死亡率 37.7%			
肺血流量減少群			_	
PPA	9	6	3	
TA	5	2 (1)	3 0	
PPS	3	3 (1)		
TF	1	1	0	
Rt	18	12 (2)	6	
開心例〕		手術死亡率 66.6%		
TAPVC	21	16	5	
TF (P弁欠損)	1	'n	ŏ	
Coarctation	i	i	ŏ	
Interruption	i	i	ŏ	
その他	i	i	ŏ	
	- '	20	5	
Ħ	25		•	
		手術死亡率 80.0%		
総計	96	58 (11)	38	
		手術死亡率 60.4%		

^{*} 国立小児病院心臓血管外科

表 2 新生児非開心術生存例16例 (術後 1年以上)

肺血流量增加素	*				
Coarctation					
** 1. 栗〇	14日		4才4月		
※※ 2. 輸○	48	端々吻合, PDA lig, PAB <u>TEF</u>		二期的手術	
* 3. 北O	17日	SCF, PDA lig, PAB	2才4月	二期的手術	生
* 4. ■ ○	14日	SCF, PDA lig, PAB (-)	特機中		
Interruption	1				
**1.小〇	19日	Gore-Tex 管, PDA div, PAB	2才10月	二期的手術 (Gore-Tex 等	生 圧差 20mmHg)
※ 2. 上〇	5日	端々吻合, PDA div, PAB	特機中	(00.0 .0	
* 3.關○	6日	端々吻合, PDA div, PAB	特機中		
VSD			_		
** 1. 森〇	24日	PAB	5才2月	二期的手術	生
※ 2.関○。	<11日	PDA lig TEF	待機中		
ECD				_ *** ** *** ***	(A=)
※ 1.福〇	12日	PAB	3才2月	二期的手術	元亡(し盟)
Taussing-B				_ 444.44.45.45	
* 1.市○	23 B	PDA lig, PAB	4才2月	二期的手術	Œ
筋血流量減少	群				
PPA					
** 1.∧○	3日	Brock	curative		<u>.</u> .
※※ 2. 矢 〇	118	Brock, A-Pシャント	3才0月	二期的手術	生
**3.視○	25日	Brock, A-Pシャント	2才5月	二期的手術	生
TA					4
**1. 南○	19日	ℓ B-Tシャント	4才4月	Glenn	±.
2. 主〇	[2日	ℓB-Tシャント	術後1年3	月 Meningit	られて
				Decen	ther, 1985

術後水頭症となって V-P シャントを 5 け、Interruption の 1 例が術後水頭症で V-P シャントを 5 けている。また、PPA の 1 例は、Brock, A-P シャント後の経過中、二期的手術前に脳梗塞発症 し、現在左上肢の麻痺を残している。

以上,新生児期先天性心疾患術後の長期 followup 調査をまとめると,一般には順調な経過を辿 り、体重、身長などの身体的発育は良好であり、 知能も正常であった。しかし、未熟児症例は術後 何らかの障害を残すことが多かった。また、術前、 術中、術後における脳の hypoxia は予後に重大 な影響を与えることもあるので、慎重な管理が必 要である。なお、姑息手術例は二期的手術への待 機期間をあまり長くしない方が得策と思われた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

からなる 4 個は

国立小児病院における新生児期(生後 28 日未満)先天性心疾患(CHD)の手術施行第 1 例は, 昭和 46 年 12 月 3 日である。以後,昭和 60 年 12 月末まで 14 年間の新生児心疾患手術症例は 96 例,手術死亡例(術後 30 日以内)58 例,術後 30 日以上の手術生存例は 38 例である。その疾患の内訳を表 1 に示した。手術死亡例中ブローベとあるのは,麻酔導入中,開胸中あるいは心大血管手術操作中,心停止を来たし,目的の手術を達し得なかった症例である。消化器系奇形の手術もあわせ施行した症例は 8 例(半数は TEF),うち手術生存例は 4 例であった。